



弓削高等学校

<https://ehm-yuge-h.esnet.ed.jp/>



祝卒業 これからの旅路に幸多かれ!

卒業の日

令和8年3月1日(日)、令和7年度第77回卒業証書授与式を本校体育館にて挙行いたしました。



春の訪れを感じさせるやわらかな日差しの中、今年度は25名の生徒が立派に卒業の日を迎えました。



3年間の高校生活では、学習や学校行事、部活動などさまざまな場面で挑戦を重ね、それぞれが大きく成長しました。最終学年となった今年度は、運動会や文化祭などで学校の中心となり、仲間と協力しながら弓削高校を力強く支えてくれました。その経験は、これからの人生において大きな財産になることでしょう。



卒業式の後には、お別れの曲としてコブクロの「蕾」を歌いました。卒業生だけでなく全校生徒で歌う「蕾」は、体育館いっぱいに温かな歌声が響き渡り、心に残る

ひとときとなりました。

式後に行われた最後のホームルーム活動では、生徒一人ひとりが家族や友人に向けて感謝のメッセージを伝えました。また、生徒会が作成した映像も上映され、在校生や先生方からの思いが届けられました。教室は笑顔と涙に包まれました。弓削高校らしい温かな時間となりました。卒業生の皆さんが、弓削高校での3年間の思い出を胸に、それぞれの進む道で力強く歩んでいくことを、教職員一同心より願っています。



卒業生のこれからの旅路に幸多かれ!

日本の交通機関について



来月、私は初めてオレンジフェリーに乗って大阪へ向かう予定です。フェリーでの移動は久しぶりなので、今から少しわくわくしています。

皆さんはオレンジフェリーを利用したことがありますか。調べてみると、チケットは想像していたよりもずっと手頃な価格でした。日本は全国的に交通網が整っていて、移動が本当にしやすい国だとあらためて感じました。

旅行が好きな私にとって、この「移

動のしやすさ」は、旅そのものをより気軽に楽しいものにしてくれる大きな魅力です。

一方で、母国カナダの交通事情は日本とは大きく異なります。広大な国土を持つカナダでは、都市と都市の距離が非常に長いので、国内を移動する主な手段は飛行機です。日本の新幹線のような高速鉄道はなく、気軽に列車で各地を巡るという感覚はあまり一般的ではありません。もっとも、カナダの鉄道網自体は決して小さくないです。総延長は48,000キロメートル以上に及び、世界でも有数の規模を誇ります。

しかし、その多くは貨物輸送を目的とした路線であり、旅客中心に発展してきた日本の約28,000キロメートルの鉄道網とは性格が大きく異なりま

英会話教室
弓削 日 19:30 ~ 弓削地域交流センター
生名 日 11:00 ~ 3分団集会所
岩城 木 19:30 ~ 岩城総合支所庁舎

こうして比べてみると、両国の交通システムの違いは、単なる距離や本数の問題ではなく、国の成り立ちや優先されてきた価値観の違いを映しているようにも思えます。効率的に人を運ぶ日本の鉄道文化に触れるたびに、カナダにもいつか新幹線のような高速鉄道が走ったらどんなに素晴らしいだろうかと想像してしまいます。



岩城地区担当
ケイティー・クリストファー・トーマス

弓削商船高等専門学校

<https://www.yuge.ac.jp/>



上島町の防災力強化へ!

防災リーダー育成研修会を実施!

令和8年2月2日(月)、本校マルチメディア教室で「防災リーダー育成研修会」を開催しました。

本研修会は、学生会役員、寮学生会役員、クラブ・同好会の部長を対象に、災害時に主体的に行動できる防災リーダーとしての自覚と認識を高めることを目的として実施したものです。当日は、40名の学生が参加しました。

研修会では、「平成30年7月豪雨」の災害状況や、上島町防災マップの活用方法などについて紹介があり、学生たちが防災への理解を深める貴重な機会となりました。



研修会で講演する田房学生主事



上島町防災マップ等はこちら!
(上島町HPより)

KDDI株式会社と練習船「弓削丸」を利用した船舶型基地局設置訓練を実施!

令和8年2月4日(水)、本校棧橋において、KDDI株式会社と練習船「弓削丸」を利用した船舶型基地局設置訓練を実施しました。

本訓練は令和4年度に締結した連携協定に基づき、練習船「弓削丸」を活用して災害時の通信確保を図るためのものです。

当日は、災害用物資の搬入手順の確認や基地局の設置作業を行い、運用に向けた課題の洗い出しを実施しました。今後は改善を重ね、災害時に迅速な通信提供ができる体制づくりを進めていきます。



わたしの 上島旅

— 第46回 —
今月の旅人



カウプ 竜一 (弓削島在住)

イギリスから来て、初めて上島町へ向かう船に乗ったときのワクワクした気持ちを今でも覚えてい

ます。瀬戸内海を渡り、この島へ向かったあの日の景色は、今も心に残っています。この二年間、町の皆さんには本当にお世話になりました。道を歩けば気さくに声をかけてくださり、畑で育てた野菜や果物を「持って帰りなさい」と分けてくださる。その優しさに何度も助けられました。

最初にご縁をいただいたマタドールジャパンをはじめ、ふらっと、ととや、波間田などで働かせていただいたおかげで、さまざまな島の行事に関わらせていただきました。

特に思い出に残っているイベントは、アイリッシュバンドの演奏です。夏の終わりのやわらかな空気の中で、弓削大橋と夕日を背景に響く音楽を聴き、最後は皆で踊

り、笑顔があふれた時間が今も心に残っています。

ここでの暮らしを通して、人を思いやる心や分け合う喜びを学びました。こうした日常は、小さなコミュニティだからこそ守られているものだと感じています。人と人とのつながり、長年築かれてきた信頼関係、皆で力を合わせて行事をやり遂げたあとの達成感。そのひとつひとつが、私にとってかけがえのない宝物です。このたびイギリスへ戻り、実家の近くにあるお寺でしばらく過ごす予定です。上島町で出会った皆さんへの感謝を胸に、これからも歩いていきます。本当にありがとうございました。

上島町観光協会

KAMIJIMA TOURISM ASSOCIATION

☎0897-72-9277

